

知の理論 (TOK) 新コース導入の成果と課題

TOK コーディネーター 永井 智大

TOK コーディネーター 北爪 一久

1. 要旨

『知の理論』(TOK) 指導の手引き」の更新に伴い、本校 15 期生より TOK の新コースが導入された。本報告書では、振り返りとして生徒を対象に実施したアンケート結果をもとに、TOK の新コース導入の成果と課題をまとめ、指導の改善に向けた所感を述べる。

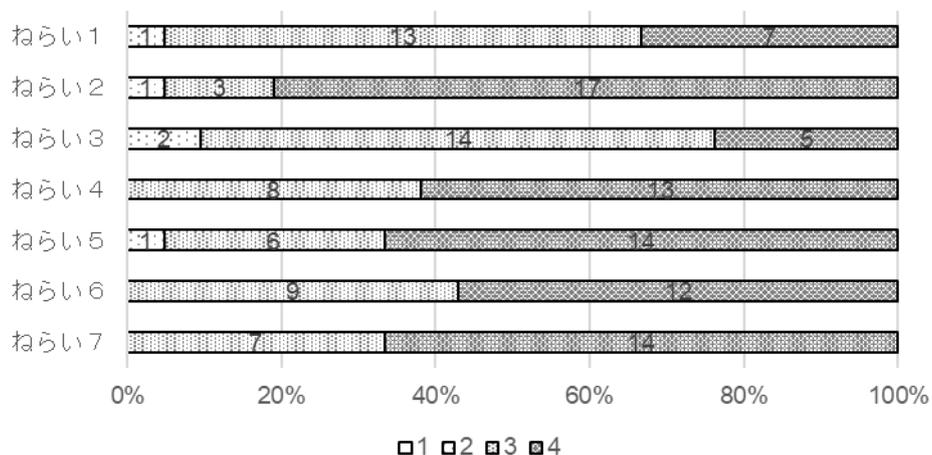
2. 成果と改善すべき点

2.1. TOK のねらいの達成度

『知の理論』(TOK) 指導の手引き」に記載されている TOK の 7 つのねらいについて、その達成度を「1. 達成できなかった～4. 達成できた」の 4 段階で生徒に回答してもらった。TOK の 7 つのねらいと回答結果は次のとおりである。

1. 「私たちはどのように知るのか。」という中心的な問いについて考え、また、この問いを提起することの価値を認識する。
2. 曖昧さや不確実性、さらには理にかなった答えが複数存在する問いに触れる。
3. この世界を効果的な方法で探り、その意味を理解する力を得るとともに、新奇で複雑な状況に遭遇したときに対応できるだけの備えを身につける。
4. 自分自身のものの見方についての認識を高め、自分の信念や前提を批判的に考察する。
5. 複数のものの見方に触れ、心を開く姿勢を養い、多様な文化の理解を得る。
6. 学問領域の基本にある概念を探究し、さまざまな「知識の領域」(AOK) で使われる探究の方法に見られる類似点と相違点を特定して、学問領域の間のつながりを見つける。
7. 知識の生産、獲得、応用、伝達に関連する価値観、責任、倫理的な配慮の重要性について考える。

TOKのねらいの達成度



すべてのねらいで90%以上の生徒が達成度3または4と回答しており、7つのねらいをおおむね達成することができたと考える。

2.2. 指導の成果

次に、指導の成果について、生徒による記述回答をもとに検討する。

回答の抜粋①：問い「TOKを通して成長できたと感じることは何ですか？」

- ・物事を批判的に見るができるようになったと感じる。情報に含まれる発信者のバイアスや媒体の性質など、その背景を考慮することで、情報の正確性や信頼性を評価することが習慣となった。情報を信じすぎず、メディアやネットと適度な距離感を持てるように成長した。
- ・視点や立場が変わることで物事に対する捉え方が変わることを学び、TOKに触れる前よりも、自分の考えとは違う意見を受け入れることができるようになったと思う。また、より多角的な視点で物事を捉えることができるようになったと思う。
- ・自身の考えを、具体例を用いて論ずる方法を知った。また、その論を組み立てて行く中で、自身の考えを批判的に見たり、調整したり、より信頼性の高いものにするという過程をできるようになった。

2.2.1. 批判的思考力

回答の抜粋の一点目に書かれているように、複数の生徒がTOKを通して批判的思考力やさまざまなものの見方の面で成長できたと回答している。この要因として考えられる指導が、AOK/テーマプレゼンテーション後の教員フィードバックとTOK展示/エッセイ面談である。生徒が授業で主に取り組んでいたAOK/テーマプレゼンテーションでは、生徒の発表後に教員によるフィードバックとして、異なるものの見方を導き出すための問いかけや事例の提示を行った。また、TOK展示とTOKエッセイ面談ではアウトラインや草稿をもとに論点が不明瞭な点の指摘や、想定される反論についての確認を行った。このように、異なるものの見方に配慮する経験を繰り返すことが、生徒の批判的思考力獲得に役立ったのではないかと考える。

2.2.2. 心を開く姿勢

回答の抜粋の二点目に書かれているように、生徒は自分と違う意見を受け入れる姿勢を身に付けられたようである。前項で取り上げたAOK/テーマプレゼンテーションがこの成果を得られた要因だと考えられる。AOK/テーマプレゼンテーションにおいて、生徒は自分のグループが担当する「知識に関する問い」に基づくプレゼンテーションを作成し、発表する。生徒はこのプレゼンテーションの前にはメンバーと、後にはオーディエンスと議論を行う。このように、答えのない問いを扱うTOKの性質や他者と意見を交わす経験の積み重ねによって、生徒の心を開く姿勢を身に付けるに至ったのではないかと考える。

2.2.3. 効果的な伝え方

回答の抜粋の三点目に書かれているように、生徒が自分の考えを効果的に表現できるようになった点も指導の成果だと言える。この成果を得られた要因の一つが、2年次に実施した個人プレゼンテーションである。生徒は、2年次の5～6月にTOKエッセイの練習として個人プレゼンテーションを行った。個人プレゼンテーションでは、TOKエッセイの構成に則って、全員共

通の「知識に関する問い」に基づいたプレゼンテーションを作成し、発表した。プレゼンテーション作成に先立って、ことばの定義づけ、適切な具体例の提示、反論の想定等、TOK エッセイの基本を指導した。加えて、個人プレゼンテーション発表後には、フィードバックとして教員によるモデルプレゼンテーションを示した。これにより、生徒が TOK の基本的な考え方及び論理構成を把握し、これを AOK/テーマプレゼンテーション、TOK 展示、そして TOK エッセイに活かすことができた。このように指導の初期段階で評価課題を意識した活動に取り組むことは、その後の授業及び評価課題において自分の考え方を効果的に伝えられるようになるという点で有効だと言える。

2.3. 指導の改善すべき点

次に、指導の改善すべき点について、前項同様に検討する。

回答の抜粋②：問い「TOK の指導について改善点があれば教えてください。」

・強いて言うならば、TOK の初段階で、知識の事例を探す方法をいくつか例としていただけると TOK が簡単になった単元もあったと思う。

2.3.1 具体例

TOK エッセイや TOK 展示で多くの生徒を悩ませていたのが、適切な具体例を見つけることの難しさであった。本校 14 期生も抱えていたこの課題を解消するべく、15 期生では 2 年次から、AOK/テーマプレゼンテーション作成前に講義や教材要約の配布によって生徒の背景知識の向上を図っている。また、AOK/テーマプレゼンテーション後のクラス全体での議論の後に、教員が参考となる具体例を提示し、生徒の視野を広げられるよう配慮している。これらの指導は特に生徒にとってなじみのない AOK/テーマ（人間科学、知識と政治など）において、生徒の思考を促すきっかけづくりとして有効であったと考える。今後は、TOK の初期段階からこうしたサポートを行い、生徒が TOK に取り組みやすい環境づくりに努める。

3. 今後の展望

15 期生の指導を振り返ると、新しい『『知の理論』(TOK) 指導の手引き』が導入され、情報やリソースが限られる中で、選択テーマや TOK 展示等の新しい要素に指導者として対応することは大変なことであった。しかし苦労の甲斐あって、今年度末をもって 3 年間の指導の見通しが立ち、ノウハウや資料も蓄積されつつある。今後は、これらのリソースを活用する一方でこれにとらわれることなく、新たなアプローチを試みながらより良い指導の在り方を模索してゆきたい。また、その一環として、教員自身が「振り返りができる人」であることも大切であろう。

【資料】 15期生知の理論（TOK）指導計画

教科・科目	知の理論 (Theory of Knowledge) (総合的な探究の時間)	学年	2, 3	教科書	なし
		単位数	2, 2	副教材	なし

学習目標	(1)「私たちがどのようにしてそれを知るのか。」という中心的な問いについて考え、また、この問いを提起することの価値を認識する。 (2)曖昧さや不確実性、さらには理にかなった答えが複数存在する問いに触れる。 (3)この世界を効果的な方法で探り、その意味を理解する力を養うとともに、新奇で複雑な状況に遭遇したときに対応できるだけの備えを身につける。 (4)自分自身のものの見方についての認識を高め、自分の信念や前提を批判的に考察する。 (5)複数のものの見方に触れ、心を開く姿勢を養い、多様な文化の理解を得る。 (6)学問領域の基本にある概念を探究し、さまざまな学問領域で使われる探究の方法に見られる類似点と相違点を特定して、それらの間のつながりを見つける。 (7)知識の生産、獲得、応用、伝達に関連する価値観、責任、倫理的な配慮の重要性について考える。	
学習方法	○知識の領域の分析 ○コアテーマの分析 ○選択テーマの分析 ○TOK展示 ○TOKエッセイ	
学習評価	評価の観点	科目の評価の観点の趣旨
	a TOK展示 b TOKエッセイ	私たちを取り巻く世界にTOKがどのように顕在しているかを示すことに成功しているか。 明確かつ筋の通った論理で所定課題を批判的に探究しているか。

※『「知の理論」(TOK)指導の手引き』より作成

内容のまとめり	時期	単元(題材)	評価方法
TOKの基本	1年次 1-3月	○ねらいとコース概要の確認 ○TOK用語の確認 ・「知識に関する問い」 ・「知識の領域」、「コアテーマ」、「選択テーマ」 ○評価の概要の確認	TOK展示
コアテーマ「知識と知人」		○知識の枠組みに応じた知識に関する問いの分析とプレゼンテーション準備 ○プレゼンテーション発表と議論 ○専門教員との質疑応答と振り返り	
知識の領域(1)「自然科学」		○知識の枠組みに応じた知識に関する問いの分析とプレゼンテーション準備 ○プレゼンテーション発表と議論 ○専門教員との質疑応答と振り返り	
知識の領域(2)「人間科学」		○知識の枠組みに応じた知識に関する問いの分析とプレゼンテーション準備 ○プレゼンテーション発表と議論 ○専門教員との質疑応答と振り返り	
知識の領域(3)「数学」	2年次 前期	○知識の枠組みに応じた知識に関する問いの分析とプレゼンテーション準備 ○プレゼンテーション発表と議論 ○専門教員との質疑応答と振り返り	
TOKエッセイ(練習)		○TOKエッセイの概要の確認 ○TOKエッセイの構成に準じた個人プレゼンテーションの計画 ○教員との面談①② ○個人プレゼンテーション発表	
選択テーマ(1)「知識と技術」		○知識の枠組みに応じた知識に関する問いの分析とプレゼンテーション準備 ○プレゼンテーション発表と議論 ○専門教員との質疑応答と振り返り	
選択テーマ(2)「知識と政治」	2年次 後期	○知識の枠組みに応じた知識に関する問いの分析とプレゼンテーション準備 ○プレゼンテーション発表と議論 ○専門教員との質疑応答と振り返り	
TOK展示		○TOK展示の概要の確認 ○TOK展示の準備 ○教員との面談①～③ ○コメントリーの提出 ○TOK展示会	
知識の領域(4)「歴史」		○知識の枠組みに応じた知識に関する問いの分析とプレゼンテーション準備 ○プレゼンテーション発表と議論 ○専門教員との質疑応答と振り返り	
TOKエッセイ		○TOKエッセイの概要の確認 ○所定課題の選択とエッセイの計画	
知識の領域(5)「芸術」	3年次 前期	○知識の枠組みに応じた知識に関する問いの分析とプレゼンテーション準備 ○プレゼンテーション発表と議論 ○専門教員との質疑応答と振り返り	TOKエッセイ
TOKエッセイ		○教員との面談①、②	
コアテーマ「知識と知人」		○知識の領域とテーマについての学習をふまえた振り返り	
TOKエッセイ	3年次 後期	○ドラフトの提出 ○教員との面談③ ○TOKエッセイの提出	
TOKのまとめ		○TOKの成果の共有 ○TOKの振り返り	